

2017 年度 A セメスター 応用日本語(9)／日本語(91)：現代文化 (L6-LS)

シラバス

Applied Japanese (9) / Japanese (91): Contemporary Culture (L6-LS)

2017 年 9 月 27 日

曜日・時限：水曜 1 限 教室：10 号館 203

対象：PEAK 生（前期生／後期生）、KOMSTEP 生、USTEP 生

レベル：L6-LS（上級以上）

科目種別：選択 単位数 2 単位

担当教員：松下 達彦（まつした・たつひこ）

Eメール：*****[.ac.jp](mailto:*****@ac.jp)

電話：03-*****（研究室直通） または 内線 *****

研究室：*****

面談・アドバイスを希望する場合：事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

（火曜～金曜の午後は研究室にいることが多い。）

授業の目標、概要 (Course Objectives/Overview)

この科目は上級レベル学生を対象とする。この科目の目的は、日本や世界の現代文化に焦点を当て、学生自身の関心のある側面を探求していくことである。また、さまざまな素材や活動を通して、聞く、読む、話す、書くの4技能を向上させていく。

具体的には、学生と教員の所定の努力により、学期末までに以下の諸点が期待される。

- 1) 現代文化の諸側面についての考えを広げて発展させ、周囲の人々と会話するときの話題を増やす。
- 2) 上級レベルの語彙や文法知識を増やす
- 3) 現代文化に関する話題の読解／聴解の素材のポイントが理解できるようになる
- 4) 現代文化に関する話題につき、自分の考えを述べられるようになる。
- 5) 現代文化に関する話題につき、短いエッセイが書けるようになる。

授業のキーワード (Keywords)

現代、文化、大衆文化（ポップカルチャー）、メディア、表象文化論

授業計画 (Schedule)

*以下の13回であるが、詳細は2回目の授業で決定し、3回目の授業で配布する。

9/27, 10/4, 10/11, 10/18, 10/25, 11/1, 11/8, **11/15**, 11/22, 11/29, ~~12/6~~ 12/13 12/20, 1/10

*12月6日は休講とし、その代わりに、11月15日に授業を行う。

授業の方法 (Teaching Methods)

初めの数回の授業については、教員が用意した素材で授業を行う。残りの授業は、学生自身が興味に応じてトピックと素材を決定し、プレゼンテーション(発表)とディスカッションによって授業を進める。

プレゼンテーション (発表) :

- 1) トピックについて教員の許可を得て、3回前までに決定する。
- 2) 全員が読んでくるべき資料を選び、教員の許可を得て、2回前までに教員にコピーを依頼する。
- 3) 教員が1回前にコピー資料を配付する。
- 4) 学生は当日までにその資料を読んでくる。
- 5) 発表者は、トピックについて資料を調べるだけでなく、ディスカッションのトピックを設定し、それについて必ず2人以上に事前にインタビューを行い、その内容を発表に含めること。
- 6) 発表者は当日までにスライドまたはレジュメ (A4、2ページ以内) を用意する。
- 7) 発表者は発表 (30分以内) を行い、その後もディスカッション (40分程度) をリードすること。
- 8) 残りの時間で教員がコメントしたり、引き続きディスカッションを行ったりする。

トピックの条件

- ・多くの学生が興味を持ってそうであること
- ・多くの学生が「ある程度は知っているがよくは知らない」こと
- ・具体例をいくつも含んでいて、それらに共通する側面を抽出できること
“ (場所) の (事象) 文化” というようにタイトルがつけられるようなものがよい
例：日本の職業文化、秋葉原のオタク文化、東大の演劇文化、
- ・日本だけに限定しなくてもよいが、日本を含むものが望ましい。比較があるのもよい。
例：アジアのポップス文化、世界の若者のスマホ文化
- ・“ (具体例) を通してみる／に見られる” “ (場所) の (事象) 文化” でもよい。
例：阪神タイガースファンを通して見る日本のプロ野球文化
嘉門達夫に見られる日本の替え歌文化
渋谷から見たITベンチャー企業文化

★現代文化のジャンル、くくり方

典型的には、以下のようなポップカルチャーをイメージすることが多い

- 音楽 (J-POP、ロック、ジャズ、クラシック等)
- 建築
- 演劇、ダンス
- マンガ・アニメ、ゲーム
- お笑い・漫才・落語
- スポーツ (野球、相撲、サッカー、等)
- 美術 (絵画、彫刻、写真、等)
- ファッション

しかし、ほかにもいろいろある。例えば、以下のような生活文化や社会的な文化。

- 料理・飲食店
- 交通・乗り物
- 祭り、イベント
- 生活の道具・小物
- 職業文化、ビジネス文化
- 政治文化

あるいは、言語や行動の文化もあり得る

- 若者言葉、流行語、あいさつ、贈り物など

また、これらのジャンルやトピックに、場所・地域のほか、年齢層、性別、特定の階層など、様々な基準で限定をかけることもできる。 例：大阪の40代以上の女性の行動文化

◆ 例1：「流行語を通してみる現代日本社会」

- ・今年流行語大賞を予想する（メディア・サーチ、インタビューなど）
- ・流行語大賞の歴史
- ・流行語を生んだドラマ：「あまちゃん」「半沢直樹」など

⇒これらの言葉を通して、日本社会がどう変化してきたか、共通する特徴は何か、などを考察する。

◆ 例2：「渋谷を通してみる現代大衆文化」

- ・ネットカフェ
- ・ITベンチャー企業
- ・109、ファッション、女子高生 cf. 東急 vs. 西武

⇒これらの事象を通して、渋谷はどのような街なのか、渋谷と他の街の共通点と相違点等を考察する。

事前配布資料の条件

- ・日本語を使うものであること。
- ・読む資料でもよいし、（日本語による）音声資料や音声を含む映像資料でもよい。
- ・読む資料の場合、A4で、2ページ程度でよい。長くても5ページ以内とする。
- ・出典がはっきりしていること。（誰が書いたかわからないものは、新聞記事などを除いて、原則として使ってはいけない。）
- ・そのままコピーできる状態で教員に渡すこと。必ず出典を記載しておくこと。

スライドまたはレジュメの条件

- ・トピックの設定理由を説明すること
- ・複数の具体例を紹介し、それらに共通する点や興味深い点を説明すること

- ・ディスカッションのポイントを含めること
- ・上級レベルの学生にも難しいと思われる語句・表現について、リストを作成し、説明すること。
- ・参考資料のリストを含めること

レポート課題：自分が発表で取り上げた内容についてまとめて、論じなさい。MS-Wordで2～5ページ程度（チェックやコメントが入れやすいのでWordが望ましい）。ITC-LMSにテンプレートを置くので、それを使って書くこと。✂切：1月4日（木）（ITC-LMSで提出）。

成績評価方法

以下の諸点に基づいて評価する予定である。

クラス活動への参加	10%
発表	50%（受講生の人数にもよるが、簡単な発表を一人1回程度）
レポート	40%（字数は制限しないがA4版、2～5ページ程度が目安）

教科書・参考書

教科書は使用しない。大衆文化（ポップカルチャー）については、書籍よりもインターネット、テレビ・ラジオ、雑誌、さらには生の声（インタビュー・データ、観察など）が重要なデータとなる。

* Facebook などの SNS やグループサイトの使用については、受講生の意見を参考にして決める。

